

## 地域活性化は活魚直売店から！！

山口県漁業協同組合二見支店女性部

藤尾 憲美

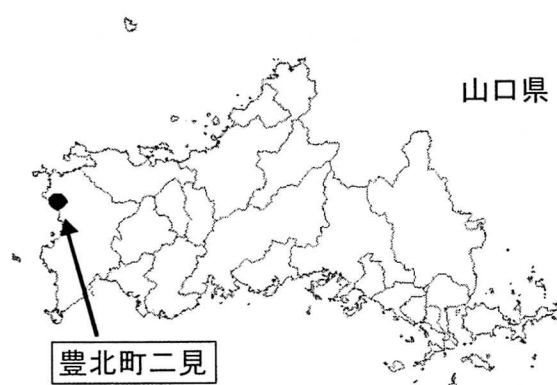
### 1. 地域・漁業の概要

私たちの住む二見地区は、本州の最西端に位置する山口県下関市の豊北町にあり、主に一本釣り漁業と磯見漁業が行われている。

### 2. 研究グループの組織と運営

女性部員は40名で、特に「地元小中学校での料理教室」を中心とした魚食普及活動、「海岸清掃」や「廃油石けん作り」などの環境保全活動に力を入れて取り組んでいる。(写真1)

また、地域のボランティア活動として「お年寄りの病院までの送り迎え」や「地元二見駅の清掃」にも積極的に参加している。



### 3. 研究・実践活動課題選定の動機

私が小学生だった頃は、二見地区でも長崎の漁業者が定置網を手伝いに来るほど浜には活気があり、海からの恵みで潤い、地域にはとても活力があった。

しかしその後、高度経済成長の中で若い世代が漁業から離れ、会社勤めをするようになった。漁業の衰退によって次第に浜から活気が無くなり、それに伴い地域の活力も無くなっていった。(図1)

ようやく最近になって会社勤めをしていた人たちが定年退職し、二見に戻ってきて漁業を始めるようになり、わずかではあるが、漁業者の数が増えてきた。これを機会に、昔のように漁業で活気あふれる地域を取り戻すことができるのではないかと、そんなことも頭をよぎるようになり、私達女性部に何ができるだろうかとみんなで話し合うようになった。

そんな折、平成12年11月、本土と角島の間に関門海峡大橋がかかったことで観光客は年々増加し、平成17年6月には、角島をロケ地とした映画「四日間の奇蹟」が全国公開され、一気に観光客が増えた。その角島へと向かう車のほとんどが、二見地区の国道を通過していくのだ。(図2)

これを見て、「この国道沿いに、二見の魅力を発信できるような店を作ることはできないだろうか」、「私たちの町には海があり、海からの恵みがある。これを最も活かすことができるのは活魚直売店しかない」と意見が一致した。

#### 4. 研究・実践活動状況及び効果

##### (1) 関係者による賛同

女性部役員会では、「交通量が増えたこの国道沿いに直売店を出せば、大勢のお客様が来てくれるのではないか」、「私たちの手で魚を販売すれば、値段を自分たちで決めることができ、漁にも励みが出るのではないか」、「直売店を始めることで、昔のように漁業で活気あふれる地域を取り戻すことができるのではないか」、「私たちの手で地域を盛り上げていこう」とみんなが意気込んだ。(写真2)

そこで、平成17年12月、女性部の臨時総会を開き、「とにかく一步踏み出してみよう」と全員の賛同を得た。二見支店の運営委員会でも相談したところ、運営委員たちも直売店の開店に向けて快く協力してくれることになった。(写真3) みんなも私たちと同じように、地域の発展を願っていたのだ。私達の思いがみんなに伝わり、気持ちが1つになった。

##### (2) 直売店の建設

さっそく直売店開設に向けて動き出すこととした。そんなに大きなお店を作る計画ではなかったが、やはり資金が必要となる。行政に相談すれば補助金をもらえたかもしれないが、補助金を受けようとするとうとうしても時間がかかる。それでは行動が遅れてしまい、せっかく盛り上がっているみんなの意欲がなくなってしまう恐れがある。また、色々な制約が出てくる可能性もあった。そのため、私たちは行政に頼らず、自分たちのお金で直売店の建設に取りかかることにした。

部員からは、「女性部が長年蓄えてきたお金を全部使っていいよ」と言われていたが、それだけでは十分ではなかったので、自分たちでできることは自分たちでやるようにした。直売店の戸や瓦などの資材は解体中の家からかき集めてきた。活魚水槽も、水産会社から古いものをもらってきて自分たちで修理し、ペンキを塗った。(写真4) 看板も全て手作りである。大工さんも、「地域のためというその心意気に感動した」と、格安で建設してくれた。さらには市役所の人が、「何もしてあげられないので、せめてこれくらいは」と、ベニヤ板に大きな魚の絵を書いてくれた。その絵は直売店の外壁に張られ、今では店のシンボルとなっている。(写真5) こうしたみんなの協力で、当初予定していた建設費用よりかなり安く抑えることができた。(写真6)

##### (3) 漁業者の協力

運営については、始めから女性部に任されることになっていた。しかし、女性部だけで運営していくのはとても大変であり、地域を盛り上げるためにも皆の協力が必要である。また、運営していくには資金が必要となる。そのため私たちは、次の3つの条件に賛同してくれる漁業者を探した。3つの条件とは、「魚を朝早くに直売店の活魚水槽に運搬する」、「活魚をやるのを手伝う」、「売上の10%を運営資金として女性部に支払う」である。ちなみに、組合に対しても別に手数料を支払う必要があり、漁業者には大きな負担となる。これだけの条件に賛同してくれる人がいるだろうかと不安だったが、「女性部ががんばっているから」と、運営委員たちが率先して魚を出してくれた。

#### (4) 直売店の開店

平成18年5月20日、私たち女性部や組合員の思いが詰まった直売店が、ついに開店した。開店当日は小雨であったにも関わらず、早朝より多くのお客様に来て頂き大変にぎわった。(写真7, 8) 予想以上に魚を捌く注文が殺到したため、急遽、豊北町の他地区の女性部に応援をお願いし、何とかその場をしのいだ。ドタバタと忙しい1日であったが、手応えを感じることもできた。

#### (5) 鮮度保持の工夫

私たちの直売店では、活魚をお客様の前で少し変わった方法で扱っている。血抜きをしっかり行った上で、頭から針金を通す「神経扱」という方法で扱ってから、水氷で冷やしている。(写真9) これがとても好評で、ここの魚はひと味違ふと口コミで人から人に伝わり、大勢のお客様に来てもらっている。そして、一度食べた人がリピーターとなっている。

#### (6) イベントの実施

直売店をオープンして1年が過ぎた頃、私たちは、さらに地域を盛り上げるため店のPRのためにイベントを開催することにした。(図3) イベント当日は好天に恵まれ、大勢のお客様に来て頂いた。新鮮な活魚や鮮魚を購入したり、バーベキューで魚を焼いたり、お魚料理教室で魚の捌き方にチャレンジしたりと、休日を満喫している様子で、大成功のイベントだった。(写真10, 11)

### 5. 波及効果

#### (1) 直売店開店による波及効果

直売店では、組合員以外の地元の人も、朝早くから誰に言われることなく道路際にのぼりを立てたり、魚の販売を手伝ったりと協力してくれる。また、店の外では地元の人が干物や100円野菜の販売も行い、集客効果を高めている。直売店を始めたことで、これまで話す機会も少なかったこうした人たちとの会話も弾み、地域が1つにまとまったような気がした。そして、開店以来たくさんのお客様に来ていただき、週末には浜は活気づくようになった。お客様の中には、毎週土日は必ず来て魚の腹開けや鱗取りなどを手伝ってくれ、仲間のようになっている人もいる。

#### (2) イベント開催による波及効果

イベントには、豊北町全地域の漁協女性部、青壮年部、漁協職員、二見地区の自治会、老人会など、総勢72名もの人がスタッフとして参加した。イベント終了後には、スタッフとして参加してくれた地元の人たちから、「声をかけてもらい、手伝いができてうれしかった。また、このような祭りをして欲しい。」という言葉頂き、勇気づけられた。いつのまにか、地域のみんが私たちの活動を応援してくれていたのである。私たちの直売店が地域の拠点となり、少しずつだが浜に活気が戻ってきたような気がした。

## 6. 今後の課題や計画と問題点

### (1) 運営経費の問題

売上は、開店以来毎月80万円程度と伸び悩んでいる状態であった。その中から運営資金として10%を受け取っていたが、それだけでは光熱費の支払いなどでほとんど無くなり、部員に日当を支払う余裕はなかった。そこで、漁業者をお願いして去年から手数料を20%に上げさせてもらった。これでようやく利益が出るようになったので、その中から日当を支払おうとしたが、「将来のために貯金しておこう」と、みんなボランティアで手伝ってくれている。みんなの気持ちに答えるために、せめて年に1回くらいは女性部みんなで旅行にでも行きたいと考えている。将来的には、運営を軌道に乗せて、日当を払えるような態勢を作っていきたい。

### (2) 周年経営の問題

売店を経営していく上で一番苦労したのが魚の確保であった。どんなに魚が獲れなくても、たとえ時化で漁に出られなくても、直売店を軌道に乗せるためには、毎週店を開き続け、しかも豊富な品揃えでお客様を迎える必要がある。そのため週末が近づくと、魚が足りるのか、魚種はどれだけ揃うのかと、いつも神経をすり減らしていた。なるべく多くの漁業者に魚を出してもらえる体制を作ることで、それなりに安定させることができた。しかし、観光客が一番多く稼ぎ時である8月には、磯見漁が最盛期を迎えるため、釣りに出る人がいなくなる。また、釣りに行っても水温が高く、魚が生け間で死んでしまうため、8月の1ヶ月間は仕方なく直売店を休むことにした。安定した運営をしていくためにも、年間通じて開店できればと思っている。

「うれしいことに海がある」という標語がある。この標語は私の大好きな言葉である。私の住んでいる豊北町には海というすばらしい財産がある。しかも、今の私たちには頼りになる大勢の仲間もいる。このすばらしい海とすばらしい仲間と共に、私たち女性部はこれからも地域の活性化を目指して頑張っていきたい。



写真1 女性部活動（料理教室）

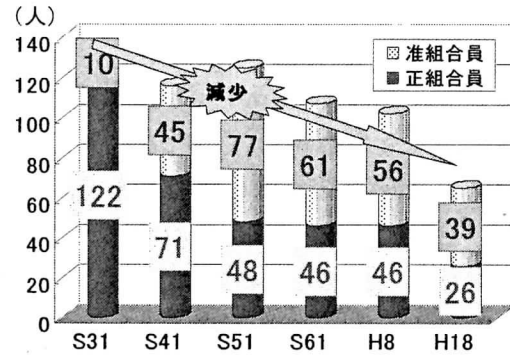


図1 二見支店組合員の推移

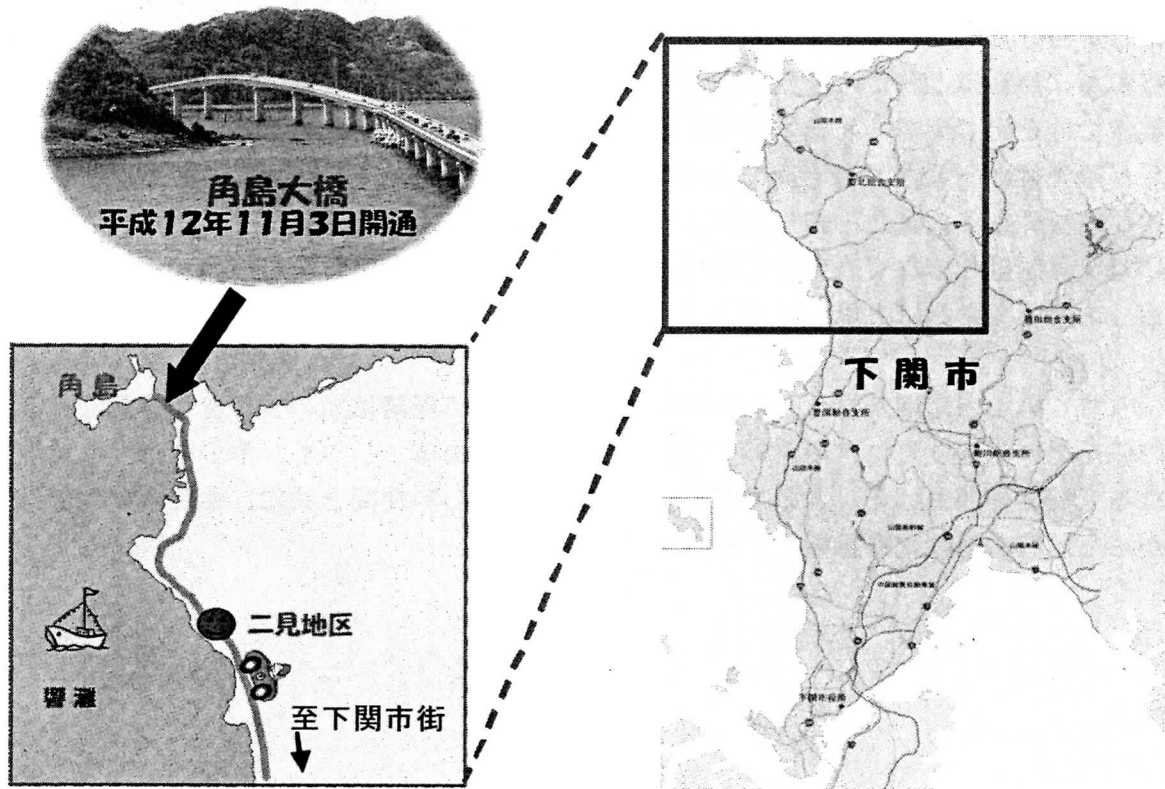


図2 角島大橋と二見地区の位置



写真2 女性部役員会



写真3 二見支店運営委員会

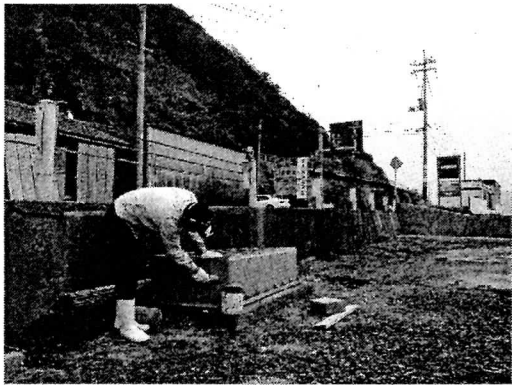


写真4 水槽のペンキ塗り



写真5 シンボルの魚の絵

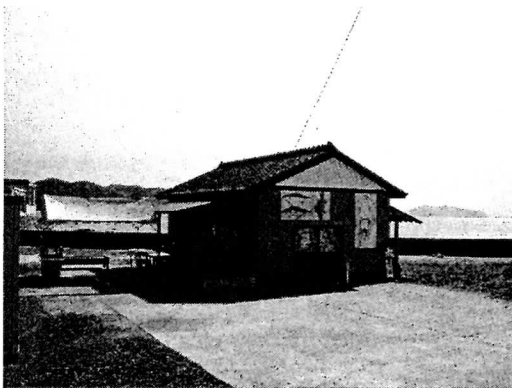


写真6 活魚直売店完成

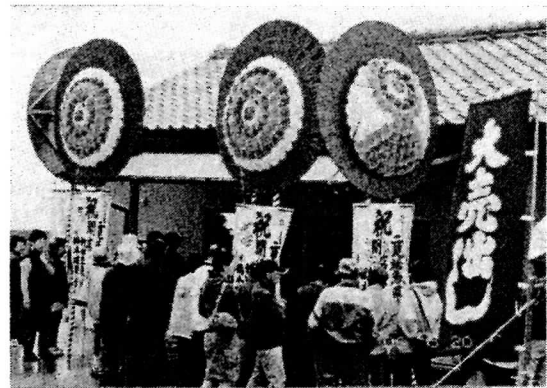


写真7 開店当日



写真8 直売店内状況

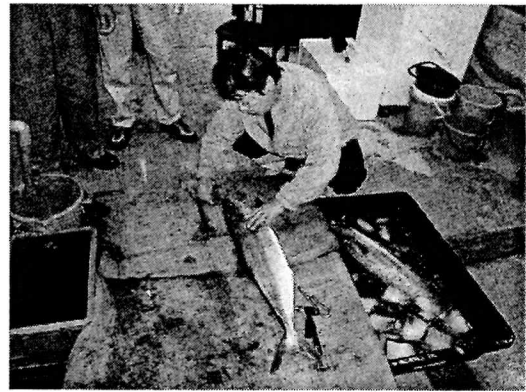


写真9 神経メ (女性部が実施)

イベント

# 浜のにぎわい祭り in みたみ

日時 平成19年11月4日(日) 8:30~

場所 二見漁港(豊北町北宇賀)

主催 山口県漁業協同組合豊北町女性部

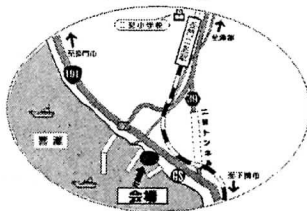
内容

- ◇活魚・鮮魚の即売(千円以上購入された方、先着100名様に贈品進呈)
- ◇水産加工品の即売
- ◇シーフードバーベキュー
- ◇地元野菜の100円市場
- ◇お魚料理教室 (10:00~ 先着50名無料)  
(13:00~ , , )

ササエ紙、刺身も売っているので、ぜひ来てね!



会場案内図



お問い合わせ先 山口県漁業協同組合豊北統括支店 (0837-86-2624)

図3 チラシ



写真10 お魚料理教室

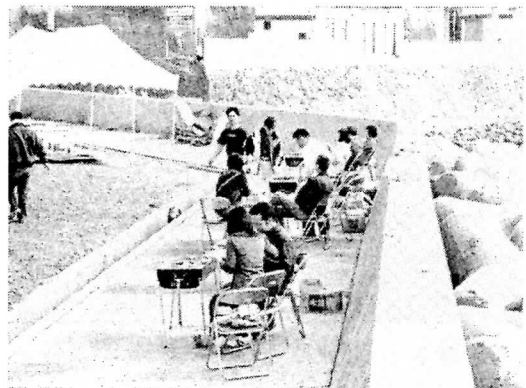


写真11 シーフードバーベキュー